

が われ 「我」を捨て、「我」を生かす



石井和子さん。「気象と文学の朗読がライフワークです」

1926年設立の女子校。調布女学校から調布中学・高校になり、2004年に田園調布学園と校名をかえた。「我」を捨てることで「我」を生かす「捨我精進」が建学の精神だ。

フリーアナウンサーで気象予報士の石井和子さん(71、1964年卒)は「学校はとても家庭的で穏やか。それでいて校則など、しつ前は厳しかった」と振り返る。思い出すのは「礼法の時間」。和室での立ち居振る舞いや今ほど普及していなかった洋食のマナーを習った。「ほんわかしたい時間。いかにも女学生という感じでした」小さな頃から夢はアナ

ウンサー。中高時代は放送部だった。学習院大学に進学。当時は女子の就職先が限られていたが、父の反対を押し切って就職活動に臨み、難関を突破。TBSに入社した。アナウンサーとしては「メインが取りこぼしたのを拾うサブ向き。そういう点では、捨我精進の調布タイプ」と笑う。

夫の転動に伴い2年で退社し、フリーアナウンサーに転身。お天気キャスターとして源氏物語に描かれた天気的面孔さを伝えた『紫式部の暗号』などの著書もある。注目したのは作者・紫式部の気象の描写だ。「人間を見つめる目と同様に自然に対する観察眼が鋭い。本当に驚きます」放送界の後輩にあたるのが、フリーアナウンサーの山本舞衣子さん(39、97年卒)。「TOKYO MIX NEWS」

(TOKYO MIX)の金曜のメインキャスターとして東京都の話題を伝えるほか、「Qさま!!」(テレビ朝日)などのクイズ番組でも活躍する。中高時代に力を入れたのは生徒会役員の活動。校則で髪どめが2センチ×8センチまでと決まっていたのを生徒の要望を受け、4センチ×10センチまでにかえた。「3年かけて実績はそれだけ」と笑う。みんなが何を望んでいるか気になったそうだ。

学校で「命」について考える授業があった影響もあり、東京都立医療技術短大看護学科(当時)へ進む。病院実習で、若い人も生活習慣病で入院しているのを見て、「病気になる前に何かできないか」と予防医学に興味を持った。東京大学医学部健康科学・看護学科(当時)に編入学し、3年で「ミンス大」に。入社した日本テレビでは、朝の情報番組や医療情報番組などを担当した。



山本舞衣子さん。取材時、2歳の娘を同伴。「周りを明るくする人になってほしい」

看護師免許を持ち、病理がわかるのが強み。医療シンポジウムの司会をするときは、医師が使う専門用語をやさしく言い換えるようにしている。医師が「頭蓋骨」とは「頭蓋骨」のことだ。「伝える「職人」として、つなぐ役割を続けていきたいですね」